

福島第一原子力発電所 土壤中のSr分析結果

1.測定結果：

(データ集約:3/4)
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約500m) ¹	平成26年10月13日	N.D. [1.3×10^1]	$(8.5 \pm 0.14) \times 10^1$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D. [1.7×10^1]	$(1.7 \pm 0.023) \times 10^2$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹		N.D. [1.4×10^1]	$(1.2 \pm 0.018) \times 10^2$
過去の測定値の範囲(平成11年度～平成20年度) ²		-	ND～4.3

[]内は検出限界値を示す

- 1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
2：出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」
(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

検出されたSr-90の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以 上

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1.測定結果：

(データ集約:3/4)
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Pu-238	Pu-239+Pu-240
グラウンド(西北西約500m) ¹	平成26年11月10日	$(1.9 \pm 0.52) \times 10^{-2}$	$(2.1 \pm 0.53) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約500m) ¹		$(8.0 \pm 1.3) \times 10^{-2}$	$(1.2 \pm 0.16) \times 10^{-1}$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹		$(2.7 \pm 0.66) \times 10^{-2}$	$(3.7 \pm 0.76) \times 10^{-2}$
国内の土壤(昭和53年～平成20年) ²		N.D. ~ 1.5×10^{-1}	N.D. ~ 4.5

[]内は検出限界値を示す

- 1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
2：出典「環境放射線データベース」(文部科学省)

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

平成26年11月10日に検出されたPu-238とPu-239+Pu-240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

以上